



食環協 ニュース 133

編集／発行 公益社団法人食品容器環境美化協会 〒108-0023 東京都港区芝浦2-15-16 田町K・Sビル6階
TEL 03-5439-5121 FAX 03-5476-2883 HP <https://www.kankyobika.or.jp>

地域のために、地域とともに行う美化活動を表彰

「第19回環境美化教育優良校等表彰式」が開催されました

1月25日(金)、「浅草ビューホテル」(東京都台東区)4階「飛翔の間」において「第19回環境美化教育優良校等表彰式」が開催されました。19回を数える今年も、表彰校の児童や生徒および教職員を始め、行政や飲料団体関係者、報道機関から多数の参加をいただきました。栄えある表彰式にふさわしい晴れやかな青空のもと、会場は功績を称える盛大な拍手とともに温かい祝福ムードに包まれました。

この表彰は、独創的な環境美化教育に継続的かつ熱心に取り組み、地域社会と連携しながら「公共の場所の美化」または「飲料あき容器等のリサイクル」を実践することにより、地域の環境美化に大きく寄与している小・中学校等を選出し表彰するものです。

本年度は、37都道府県から推薦を受けた小・中学校37校の中から、審査委員会による厳正な審査を経て、最優秀賞となる「文部科学大臣賞」「農林水産大臣賞」「環境大臣賞」「協会会長賞」の4校が選定され、表彰の運びとなりました。なお、優秀校6校、優良校27校の表彰校については、P9以降に掲載されています。



表彰式・懇談会レポート

表彰式では冒頭、当協会の会長柴田暢雄（コカ・コーラ協会副会長）があいさつし、現在の環境問題に触れながら、表彰事業の意義や美化活動の大切さについて述べました。その後、賞状授与に先立ち、表彰校4校の活動内容をスライド映像で紹介。各校の児童や生徒が、地域特性を生かした環境美化活動を住民と連携して取り組む様子が披露されると、熱心にメモを取り、児童や生徒のひたむきな姿に感動しながら聞き入る参加者の姿も見られました。

賞状・副賞授与に続いて、審査委員長の小澤紀美子・東京学芸大学名誉教授が登壇。審査の評価基準に触れながら講評し、「科学的根拠を踏まえた環境美化活動を実践し、地域とつながりを持って地域の課題に取り組み、協働する学び合いの関係を構築し、地域全体が屋根のない学校になることが重要」であることを強調しました。



回 環境美化教育優良校表彰 最優秀校
公益社団法人 食品容器環境美化協会 後援：文部科学省 農林



また、来賓として出席された文部科学省の東良雅人氏、農林水産省の矢部努氏、環境省の富安健一郎氏からは、「持続可能な社会環境づくりに向けて、地域と連携を深めながら美化活動に取り組み、こうした活動が全国に広がることを期待しています」と祝辞を賜りました。

表彰式典後は、東京スカイツリーや浅草界隈の夜景が一望できる25階「大輪の間」に移動し、食事や飲み物を囲みながら和やかに懇談会が行われました。乾杯のあいさつでは、柴田暢雄会長が受賞校の活動をあらためて賞賛するとともに将来を担う子どもたちにエールを送りました。懇談会の途中、児童や生徒たちが登壇し、各校の環境美化活動を紹介。学校のオリジナル体操や、地域ゆかりの戦国武将に扮したパフォーマンス、大人顔負けのプレゼンテーション披露など、校長先生や教員も登壇しながらの各校工夫を凝らしたスピーチに会場は大いに沸きました。

■ 出席者のスピーチ（要旨）

科学的根拠を持った活動が 実践的な学びと深く結びつく

審査委員長 東京学芸大学名誉教授 小澤 紀美子氏



今回最優秀賞を受賞された4つの学校の取り組みを映像で拝見し、あらためて児童や生徒は教科書だけで学んでいるのではなく、創意工夫を重ねながら主体的に学びを深めていることを実感しました。また、活動の内容が科学的根拠を持ち、実践的な学びと結びついていること、地域社会と連携した取り組みにより学びが広がっていることに感動しました。他の優秀校や優良校の取り組みにおいても、学校の中だけで学習するのではなく、各地域の課題を地域とのつながりを持って活動しています。地域の方々と協働する学び合いの関係性を構築し、地域の方々から学び、地域の方々は児童や生徒から学びを展開し、地域全体が「屋根のない学校」になっているという思いを強くいたしました。この活動が、全国に発信され、日本全体に広がることを祈念いたします。

環境問題についての理解を深め 環境保全に寄与する態度を育む

文部科学省 初等中等教育局 視学官 東良 雅人様

地球規模の環境問題の解決のため、持続可能な社会の構築や低炭素社会の実現が求められています。これからの世界を担う子どもたちが、環境問題やエネルギー問題について正しく理解を深め、責任を持って環境を守るための行動をできるようにすることが、学校教育においても極めて重要な課題です。文部科学省では、平成29年3月に小学校及び中学校、昨年3月に高等学校の学習指導要領の改訂をいたしました。引き続き環境教育に関する内容を重視しております。本日受賞されたみなさんには、これからも環境問題についての理解をより一層深め、環境保全に寄与する態度を持って心豊かにたくましく成長されることを心から願っております。



地域を巻き込んだごみの散乱防止活動が 今後の人生に生かされる

農林水産省 食料産業局 バイオマス循環資源課 課長補佐(容器包装リサイクル班担当) 矢部 努様

現在、プラスチックごみが問題視されており、政府としてもさまざまな検討を行っているところです。受賞校を紹介するビデオ映像において、ペットボトルなどが海岸や道端などに散乱している様子が取り上げられていましたが、決してペットボトルが悪いのではありません。それらの容器などの散乱をいかに防止していくかが今、問われているのです。今年は、たいへん災害が多い年でしたが、食品容器環境美化協会を支えている各飲料メーカーは、飲料を始めとする食料などを支援物資として被災地に届けるという重要な役割を担っておられます。皆さんの地域を巻き込んだ散乱防止活動は、人生の一時かもしれませんが、実りの多い経験として今後に生かされることと思います。



美化活動を全国に広げて 美しい国「日本」を世界にアピール

環境省 環境再生・資源循環局 総務課 リサイクル推進室 室長 富安 健一郎様



みなさんが日々の生活を送るためにはいろいろな資源を使うことになります。また、ごみを出すことにもなります。つまり、環境に影響を与えるということです。一方で、みなさんは、環境のことを考えて生活の仕方を工夫することができます。ムダなモノを買わない、マイバッグを使い、ごみを出すときは分別を行う、ごみのポイ捨てをしないなどさまざまな取り組みができます。みなさんが行動することで世の中が変わります。皆さんが取り組んでいる美化活動は、そのきっかけの一つだと思います。来年、2020年は東京オリンピック・パラリンピックが開催され、世界からたくさんの方が来日されます。日本が美しい国だと知ってもらえるように、みなさんの美化活動が全国に広がっていくことを願っています。

■ 最優秀校の活動紹介および出席者インタビュー

4年生主導の清掃活動がふるさとの海と砂浜を未来につなぐ

文部科学大臣賞 ^{ななつか} 石川県 かほく市立七塚小学校



マラソン大会などの学校行事でよく利用する海浜が、目の前に広がる同校。近年、浜幅が狭くなり漂着ごみが増えていることに問題意識を持ち、環境をテーマに取り組む4年生が、美化活動を開始した。ごみの実態調査を行い、児童会に「海浜クリーン作戦」を提案、1990年から全校児童で実施している。さらに、環境保全には住民の協力が必要だと考え、清掃活動の参加を呼びかけるポスターを作成し、商店などに掲示依頼。金沢海上保安部にもお願いするなど、地域を巻き込んだ取り組みに発展している。その傍ら、総合的な学習の時間や他教科を連動させながら、海洋ごみ問題などより掘り下げたテーマで新聞制作も行う。こうした美化活動を機に、住民との連携は活発化。一昨年からは、絶滅の危機に瀕していた木津桃の木を復活させる新たな活動に、6年生が挑戦している。住民の指導のもと、同校に苗木を植樹し、大切に管理しながら育てている。木津桃に愛着が湧いた児童は、苗木を自宅で栽培してくれる里親を募集するなど、地域の宝を次世代に引き継ぐ意思が培われている。

石川県 かほく市立七塚小学校のみなさん

「私たちが行っている海浜クリーン作戦は、地域の人たちも参加して下さっていますので、この最優秀賞は、地域全体のものでもあり、七塚の誇りになると思います。これからも、海の漂着ごみを回収していきたいです」

石川県 教育委員会学校指導課 指導主事 堀 順一郎氏

「単年の取り組みではなくて、ずっと継続して取り組んでいることが推薦の決め手になりました。地域の方を巻き込んで、連携して海浜の美化活動を行っている取り組みは、県のモデルとして推奨していきたいです」

北陸地方連絡会議 北陸コカ・コーラボトリング株式会社

広報環境部長 山本 克彦氏(下部写真左)

「今回受賞した七塚小学校のように優れた美化活動を行っている学校がまだまだあると思いますので、これを機に掘り起こしていきたいです。そして、継続して取り組んでいる活動を支援していければと思います」



地域の宝を守る生徒中心の美化活動と保全作業が自己肯定感磨く

農林水産大臣賞 新潟県 上越市立春日中学校

上杉謙信の居城として知られる春日山城跡が校区にある同校では、その史跡周辺の多彩な美化活動を行っている。毎年開催される一大行事「謙信公祭」において、2008年頃から実施しているのが「おもてなしゴミ回収隊」活動。ごみのない祭り会場で快適に楽しんでもらおうと、ごみ袋を持って回収を呼びかけている。並行して、生徒は史跡の保全「土の一袋運動」にも励む。主に、風雨にさらされて土が削られた部分を修復するために、土の入った袋をリレー方式で運び、土を補充し踏み固める地道な作業だ。さらに、春日山には欠かせない松林の松の根がむき出しになった箇所は、芝を張って杭で固定するなど、地域団体の指導のもと積極的に取り組む。こうした活動を生徒会主導で進めた結果、春日山は自分たちが守るという意識が芽生えた。現在、生徒が企画提案から関わる謙信公祭は、のぼり旗の設置やポスター制作、狼煙上げ準備、演武披露など多岐に渡り、一人ひとりが出来ることに取り組んでいる。美化活動を機に育まれた自己肯定感が、地域を盛り上げる原動力になっている。



新潟県上越市立春日中学校のみなさん

「春日山の清掃活動や地域のボランティア活動などを通して、この町がもっと自然豊かになるように、また春日中学校が地域に愛されるように、そんな学校を目指して、これからも地域貢献活動に力を入れます」

新潟県 県民生活・環境部

環境企画課 地球環境対策室長 梅津 了氏

「本日受賞された春日中学校が素晴らしい美化活動に取り組んでいることを、県民の皆さんにも広くお知らせしながら、それぞれの地域の活動に役立ててもらい、参考にしていただきたいと強く思います」



新潟地方連絡会議 カゴメ株式会社

関東支店 営業三課課長 竹村 学氏(下部写真左)

「全国にあるたくさんの学校の中から最優秀校に選ばれた春日中学校は、本当に素晴らしい美化活動を実践されています。この受賞を機に、来年も、またこの場に来られるように私共も頑張ってまいります」

海の環境とウミガメの命を先頭に立って守り抜く18名の児童

環境大臣賞 鹿児島県 南九州市立松ヶ浦小学校 まつがうら

公益社団法人 食品容器環境美化協会 後援：文部科学省 農林



ウミガメが産卵する砂浜が校区にある同校では、「いつまでも安心して帰ってこられるように」との思いをスローガンに掲げ、さまざまな環境美化活動に取り組む。指宿海上保安署や知覧町ウミガメ保護研究会と連携しながら2009年から行っているのが、漂着ごみの回収と分類調査。分別したごみは計量して、過去のデータと比較しながら実施しているのが特徴だ。もともと環境意識が高い地域で、数十年前から市を挙げて海岸クリーン作戦を開催している。きっかけは、きれいな砂浜を維持できなければ、ウミガメが産卵に来なくなる危機感を抱いたことからだった。児童は、団体や住民と協力して、ウミガメの卵の保護活動にも取り組む。ウミガメの生態を学ぶ傍ら、卵を安全な孵化場に移設し、毎日懸命に世話をする。無事孵化した子ガメを放流するときには、ウミガメ放流会を開催。児童自らウミガメガイドを務め、命の大切さや漂着ごみを減らす必要性をアピール。こうした美化活動と保護活動が一体となった、児童を中心とした地域ぐるみの取り組みは、県内外から高く評価されている。

鹿児島県南九州市立松ヶ浦小学校のみなさん

「今回の受賞は、平成6年から行われてきた一連の活動が認められたものなので、卒業生や保護者、地域の方々と喜び合います。今後も地域の方々への感謝の気持ちを忘れず、自然を守る活動に取り組んでまいります」

鹿児島県 環境林務部 廃棄物・リサイクル対策課 富山 かおり 芳氏

「地域ぐるみで一体となって継続して取り組んでいること、さまざまな教科に生かしながら広がりを見せていること、自分たちができることを考えることによって、子どもたち自身が成長している姿が印象的でした」

鹿児島地方連絡会議 UCC上島珈琲株式会社 西日本支社南九州支店 支店長 川原 聖一氏(下部写真左)

「ウミガメがいつでも帰ってこられるようにという思いを掲げて取り組んでいる活動ですが、ウミガメだけではなく、学校を卒業して外に出て行った子どもたちも帰ってこられるような町になればいいなと思います」



恩返しから始まる多彩な美化活動で盛り上げる地域の担い手

協会会長賞 山口県 光市立浅江中学校^{あさえ}

白砂青松の景勝地が校区にある同校では、学校内外に目を向けた散乱ごみの回収活動を行っている。AYC（あさえやっちゃろうクラブ）と名付けたこの取り組みは、2011年から開始し、市で研修を受けた生徒会リーダーが分別指導にあたる。資源循環や保全を意識するようになった生徒は、市が主催する大規模な清掃活動にも全員参加。こうした地域と連携を深める上で欠かせないのが、同校独自のコミュニティ・スクールの組織「あさなえ」ネット」だ。企画推進委員会の構成メンバーである保護者、住民、教職員に加え、2016年から生徒会が参画したことによって、組織の動きが加速した。今年度は、健康な体づくりを目的とした「早朝元気クラブ」と、前述のAYCがコラボした地域の清掃活動を実施。環境美化にとどまらず、住民との交流が深まる取り組みに発展している。それらの活動を通して、生徒は地域に恩返しの意味を込めて、小学生に掃除を指導するなど、自分たちができる取り組みを自主的に始めた。地域の宝である松林の保全活動にも参加、一人ひとりの自己有用感が向上している。



山口県光市立浅江中学校のみなさん

「美化活動を行っている生徒たちは卒業していきますが、その思いや形は残ります。活動を開始して10年が過ぎましたので、内容を見直しながらかまた新たなことに挑戦し、地域とのつながりを強くしていきたいです」

山口地方連絡会議 大塚製薬株式会社 山口出張所 所長 田辺 廣一郎氏

「今回4校のうちの1校に選ばれたのは光栄で、この受賞を機に、毎年選んでもらえるよう地連としても活動を続けていきたいです。地域と密着して取り組む浅江中学校の取り組みが、他校に広がることを願っています」

第19回 環境美化教育優良校等表彰 表彰校

最優秀校 (4校)

- 文部科学大臣賞 石川県 かほく市立七塚小学校^{ななつか}
- 農林水産大臣賞 新潟県 上越市立春日中学校^{かすが}
- 環境大臣賞 鹿児島県 南九州市立松ヶ浦小学校^{まつがうら}
- 協会会長賞 山口県 光市立浅江中学校^{あさえ}



優秀校 (6校)

- | | | | |
|-----|-----------------------------|-----|---------------------------|
| 埼玉県 | 加須市立昭和中学校 ^{しょうわ} | 富山県 | 入善町立飯野小学校 ^{いいの} |
| 兵庫県 | 南あわじ市立西淡中学校 ^{せいだん} | 徳島県 | 石井町浦庄小学校 ^{うらしょう} |
| 大分県 | 竹田市立菅生小学校 ^{すごう} | 宮崎県 | 都城市立中郷中学校 ^{なかごう} |

優良校 (27校)

- | | | | |
|------|---------------------------------|-----|----------------------------------|
| 北海道 | 新十津川町立新十津川中学校 ^{しんとつかわ} | 青森県 | 弘前市立三省小学校 ^{さんせい} |
| 宮城県 | 石巻市立中里小学校 ^{なかざと} | 秋田県 | 仙北市立生保内中学校 ^{おぼない} |
| 山形県 | 新庄市立新庄中学校 ^{しんじょう} | 福島県 | 白河市立白河中央中学校 ^{しらかわちゅうおう} |
| 茨城県 | 古河市立古河第一中学校 ^{こがだいいち} | 群馬県 | 東吾妻町立東吾妻中学校 ^{ひがしあがつま} |
| 千葉県 | 八千代市立大和田中学校 ^{おおわだ} | 東京都 | 西東京市立田無第一中学校 ^{たなしだいいち} |
| 福井県 | 敦賀市立沓見小学校 ^{くつみ} | 長野県 | 長野市立櫻ヶ岡中学校 ^{さくらがおか} |
| 岐阜県 | 輪之内町立輪之内中学校 ^{わのうち} | 静岡県 | 掛川市立上内田小学校 ^{かみうちだ} |
| 愛知県 | 豊山町立新栄小学校 ^{しんえい} | 京都府 | 宮津市立栗田中学校 ^{くんだ} |
| 大阪府 | 大阪市立新豊崎中学校 ^{しんとよさき} | 奈良県 | 天理市立丹波市小学校 ^{たんばいち} |
| 和歌山県 | 那智勝浦町立下里小学校 ^{しもさと} | 鳥取県 | 琴浦町立赤碕小学校 ^{あかさき} |
| 岡山県 | 和気町立佐伯中学校 ^{さえき} | 愛媛県 | 松山市立素鷲小学校 ^{そが} |
| 高知県 | 南国市立十市小学校 ^{とおち} | 福岡県 | 糸島市立長糸小学校 ^{ながいと} |
| 佐賀県 | 伊万里市立牧島小学校 ^{まきしま} | 長崎県 | 長崎市立稲佐小学校 ^{いなさ} |
| 熊本県 | 合志市立合志中学校 ^{こうし} | | |

■ 優秀校・優良校の表彰状等授与式の開催

第19回環境美化教育優良校等表彰事業において、全国の小・中学校の中から優秀校、優良校に選ばれた学校において授与式が行われました。その様子を一部ご紹介します。

【優秀校】受賞校6校のうち2校を抜粋紹介

富山県 入善町立飯野小学校^{いいの}

児童会の環境クリーン委員会の呼びかけで、1998年から開始した全校児童によるクリーンボランティア活動。主に、学校周辺に散乱しているペットボトルや空き缶などを回収する取り組みで、年7回実施している。同時に、環境クリーン委員会では1999年から毎週月・木曜日の朝、独自に清掃活動を行う。こうした一連の美化活動をきっかけに、環境意識や主体性が高まった児童は、住民と協働で同校の近くにある芦崎海岸の清掃にも取り組む。力を合わせて継続的に実施している児童の姿は、住民からも高評価で、地域の模範にもなっている。

「学校内外のクリーン活動に加えて、地域の方々の協力を得ながら、近隣の海岸の清掃活動を行ってきました。今回の表彰はたいへんよい励みになったと思います。今後も後輩に引き継いで、継続してまいります」

〔授与式の出席者〕 ●富山県 入善町立飯野小学校のみなさん
●北陸地連 大宮 洋太氏（アサヒ飲料株式会社）



埼玉県 加須市立昭和中学校^{しょうわ}

日頃お世話になっている地域に貢献しようと生徒の発案で2014年に開始した清掃ボランティア活動。主に、体育館や市役所などの公共施設周辺に散乱しているごみを回収、分別している。部活動単位で行っているが、参加者は年々増加。自主的に地域をきれいにしようという意識向上につながり、この取り組みはさらに広がり、地元の夏祭り後の会場の清掃活動へと発展。「昭和中ダストバスターズ」と名付け、400人以上が参加して地域内の清掃活動を行う。住民からは感謝の声が寄せられており、地域の環境意識の啓発に結びついている。

「地域清掃活動は、生徒が地域貢献を肌で感じる活動として誇りに思っている生徒が多く、地域でも定着しています。この受賞を機に、生徒会スローガン『きれいな心でボランティア』を合言葉に、本校の伝統的な活動になるように、地域社会のみなさんに感謝の思いを込めて取り組んでいきたいです」

〔授与式の出席者〕 ●埼玉県 加須市立昭和中学校のみなさん
●埼玉県 環境部資源循環推進課 循環型社会推進担当 主幹 能勢 一幸氏
●加須市 教育委員会 学校教育課 学校教育課 主幹 清水 明子氏
●埼玉地連 本多 永幸氏（コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社）



【優良校】受賞校27校のうち4校を抜粋紹介

茨城県 古河市立古河第一中学校^{こが だいいち}

ラムサール条約登録の渡良瀬遊水地の近くに位置する同校では、長年にわたり住民とともに遊水地クリーン作戦を実施。創立72年の伝統校で、古河花火大会翌日に開催する河川敷クリーン作戦や、駅周辺で行うあいさつ運動など、地域に根差した美化活動にも率先して取り組む。ボランティア活動を継承しながら、生徒は地域を支える一員であることを実感している。



「本校の美化活動は、日頃より『日常の当り前のこと』と認識して取り組んでいます。生徒代表である生徒会長が、リーダーシップを発揮し意識を高く持ちながら、生徒一丸となって継続して行っていますが、このたび名誉ある賞を頂きたいへんうれしく思います」

[授与式の出席者]

- 茨城県 古河市立古河第一中学校のみなさん
- 茨城地連 尾高 康幸氏(株式会社伊藤園)
- 茨城地連 小倉 千明氏(株式会社伊藤園)

大阪府 大阪市立新豊崎中学校^{しんとよさき}

自分たちの力で環境を整えようと生徒が中心になり、2012年からスタートした地域清掃活動。「クリーンしんとよ」と名付けて全校生徒に呼びかけ、月1回程実施している。当初は、学校周辺だけの清掃だったが、地域の要望を受けて、近隣の特別養護老人ホームでも実施、徐々に活動範囲を拡大中だ。美化活動を通して地域住民との交流が活発になっている。



「生徒が自主的に取り組んでいる地域清掃活動がこのような形で表彰されたことは、非常に嬉しいです。学校関係者以外から表彰されることはめったにないことですので、今回の受賞は生徒にとって励みとなりますし、今後もこの取り組みを継続していきたいと思います」

[授与式の出席者]

- 大阪府 大阪市立新豊崎中学校のみなさん
- 大阪府 教育庁 教育総務企画課 郷 文子氏
- 大阪地連 登倉 秀裕氏(コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社)

和歌山県 那智勝浦町立下里小学校^{しもさと}

校区内の大浜海岸の砂浜は、アカウミガメが産卵する場所で知られている。その環境保全を目的に、1995年から「大浜クリーン作戦」を実施。地元の自然保護団体や住民と連携しながら、散乱する漂着ごみなどの回収に励む。2015年に、同校独自の教科「海の時間」を設置、ウミガメ学習の出前授業を始めとする五感を重視した体験学習活動を実践している。



「地域の協力を得ながら長年にわたり続けてきた大浜海岸の清掃活動が、今回評価されて大変嬉しく思います。地道な活動ですが、この受賞を機に、伝統行事としていっそう発展させていき、きれいな大浜海岸をずっと守っていききたいと思います」

[授与式の出席者]

- 和歌山県 那智勝浦町立下里小学校のみなさん
- 和歌山県 教育庁 東牟婁教育支援事務所 指導主事 竹本 明央氏
- 和歌山県 那智勝浦町教育委員会 学校教育課 課長 草下 博昭氏
- 和歌山地連 横田 恭史氏(アサヒビール株式会社)
- 和歌山地連 千葉 篤氏(大塚製薬株式会社)
- 和歌山地連 山名 裕之氏(ダイドードリンコ株式会社)

鳥取県 琴浦町立赤碕小学校^{あかさき}

鳥取県沿岸漁業基地の一つ、赤碕港を校区に持つ同校では、海辺の漂着物の回収調査を実施している。保護者に漁業関係者が多く、海とのつながりも深いロケーションを生かし、住民ボランティアによる環境学習が盛んだ。児童は、海岸に広く散乱するペットボトルなどの漂着ごみを回収分別しながら、美化意識を高め、環境を守る大切さを情報発信している。



「海に関心が高い子どもたちも多く、自分たちが住む町の海をきれいにしたいという思いで始めた活動です。ペットボトルやプラスチック製品、海外からの漂着ごみなどを回収し、数時間の活動でゴミ袋30袋分にもなります。この活動を通して、子どもたちはゴミを見つけたら自主的に回収するようになりました」

[授与式の出席者]

- 鳥取県 琴浦町立赤碕小学校のみなさん
- 山陰地連 本郷 浩介氏(株式会社伊藤園)
- 山陰地連 上野 賢治氏(株式会社伊藤園)

学校における環境学習の教材の一部として活用が出来ます。



「まちの美化」と「リサイクル」をテーマにした小学生用のサイトがあります！

まち美化キッズ

【サイトのご紹介】

「まち美化キッズ」は、食品容器環境美化協会が小学校高学年を対象に制作した学習 Web サイトです。児童たちの身の回りにある飲料容器「びん、かん、ペットボトル」を通して、環境美化・リサイクルの大切さや仕組みを「まち美化ってなあに?」「ポイ捨てストップってなあに?」「調べ学習コーナー」等、楽しく学べる構成となっています。



まち美化ってなあに?



ポイ捨てストップってなあに?



ホームページは
こちらから

まち美化キッズ

検索

<https://www.kankyobika.or.jp/kids>

